

代替医療

最新ガイド



鈴木 信孝

すずき・のぶたか
81年、防衛医科大学
卒業。恵寿長
総合病院・産院長
などを経て、現在、
金沢大学医学部特
任教授。01年から
日本補完代替医療
学会理事長。

最近、補完代替医療が医学の世界で注目されるようになりまして。いったいどんな療法で、成果はどこまで上がっているのでしょうか。最新の情報を2人の専門家に報告してもらいます。

補完代替医療というと、まだ日本ではなじみがありませんが、海外ではコンプリメンタリー・オルタナティブ・メディスン(CAM)として、医学界だけでなく、一般用語としても普通に使われるようになっていています。

その証拠に、米国NIH(国立衛生研究所)はCAMの研究に年間300億円以上の国家予算を割り当てています。

一方、日本では補完代替医療に関する学会や専門講座が金沢大学など3大学の医学部や薬学部に誕生してはいるものの、国家的な取り組みは遅れているのが現状です。

CAMと言っても、実は範囲が非常に広く、具体的にはサプリメント(健康補助食品)、ハーブ療法(ハーブティー、アロマセラピーなど)、中国医学やインド医学などの伝統医学、ヨガ、指圧、マッサージ、リフレクソロジー、音楽療法、温泉療法、園芸療法、芸術療法、磁気治療、運動療法など、さまざまなものがあります。

ちょっと驚かれると思いますが、WHO(世界保健機関)によると、世界の健康管理業務の65〜80%が西洋医学以外の「伝統医学」によって行わ

人を癒やす治療法

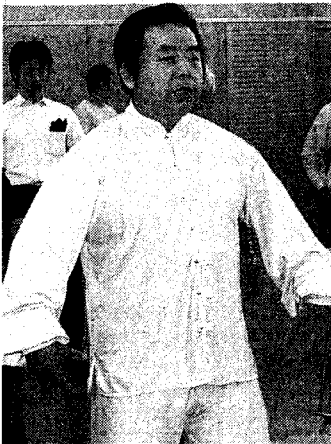
れています。つまり、伝統的医療を用いている人の方が西洋医学を受けている人よりずっと多いのです。

そうした背景の中、伝統医学などを科学的に検証し、西洋医学を補完する形で用いようというのがCAMの目的となるわけです。

ではなぜ、今、CAMが支持を集めているのでしょうか。もともと我々医師の目的は、患者の病気を「治癒」させることです。しかし、我々医療従事者はこれまで病気を「治す」ことばかりに目を向け、「治癒」のもうひとつの意味である「癒やす」ことやQOL(生活の質・人生の質・生命の質)を向上させることをおろそかにしてきました。その結果、患者と医療従事者がめざす医療との間に大きなギャップが生まれ、人々は医師に相談しないで、自己判断でCAMを用いるようになっていったわけです。

米国では約4割、日本でも約7割が何らかの形でCAMを利用していています。患者にとって、より自然で親しみやすく、温かく、理解しやすい治療法だからでしょう。次回から具体的な治療法の特徴などをお話ししていきます。

＝つづく



気功も代替療法の一つ